

筋力バランスを持続する物質の検証

< ノイロメーターによる比較測定 >

○吉富 賢一(日本キネシオン協会)、越智 信之(良導絡研究所)

《はじめに》キネシオロジー「筋力運動学」での身体筋肉学・筋生理学・筋骨格機能解剖学の三つの領域からなる、徒手筋力テストが基礎となる作業療法の中で発展した手法に筋肉の生理活性を適用し、姿勢と筋力バランスを回復させるという考え方と、各臓器と各筋肉との直接関係を定義づけ名付けたのが、米国DC・Jグットハートである。A・Kは各々の骨格筋の働きについて、それぞれの筋肉の反応する部位にゴーディング(圧振動)や手技療法を行うことで、低下した筋力や可動性を一時的に回復させ、問題部位を特定する検査法を主にしたものであり、更に筋力の活性化を持続させ治療法にしたものがダイナミックキネシオン(D・K)療法である。

《結果》高純度スーパーゲルマ粒だけは弱い筋力が強化され磁石は強かった筋力が弱く反応した。

[ケース1]ではダミーテープ貼付後に変化がみられたが、5時間後の測定ではコントロール(貼付前)と同じノイロメーターに戻っており効果が認められた。[ケース2]ではダミーテープ貼付前、貼付直後、貼付5時間後共にノイロメーターおよびDKに変化が観られなかった。低純度ゲルマニウム粒を用いた[ケース3][ケース4]でも[ケース1][ケース2]と同様の結果となった。

